

財務会計

問題 1

次の各取引の仕訳を示しなさい。なお、会計期間は3月31日を決算日とする1年とする。(10点)

- (1) 決算に際し、当期分の法人税等700,000円を計上した。なお、当社はすでに小切手を振り出して300,000円を中間納付しており、仮払法人税等として処理している。
- (2) 株式500株を1株につき10,000円で発行した。払込金は当座預金とし、会社法における最低限度額を資本金とした。なお、増資のために要した手数料700,000円は、現金で支払った。
- (3) ×2年3月11日に、売買目的により額面100,000円の社債を額面100円につき98円で購入し、端数利息とともに小切手を振り出して支払った。なお、この社債は利率7.3%、利払日は6月末、12月末の年2回で、端数利息は1年を365日として日割計算する。
- (4) 以前に甲東商店から裏書譲渡された約束手形100,000円について、取立銀行に取り立てを依頼したところ、支払いを拒絶されたので、甲東商店に対して手形代金の支払いを請求した。なお、その際に拒絶証書作成費用5,000円を現金で支払った。
- (5) ×3年9月30日に建物を1,100,000円で売却し、代金は翌月末に受け取ることとなった。この建物は×1年6月1日に1,200,000円で取得し、耐用年数20年、残存価額はゼロ、定額法により償却(間接法)してきたものである。なお、減価償却費は月割計算すること。

〔解答欄〕

(単位：円)

	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

問題 2

次の〔資料〕に基づいて、次ページの精算表を完成しなさい。なお、会計期間は×4年4月1日から×5年3月31日までの1年間である。(20点)

〔資料〕 決算にあたっての修正事項および決算整理事項

1. 受取手形と売掛金の期末残高の合計額に対して3%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
2. 期末商品の棚卸高は次のとおりである。ただし、売上原価は「仕入」の行で計算する。なお、棚卸減耗損と商品評価損は、精算表上、独立の科目として示すこと。

帳簿棚卸数量	実地棚卸数量	原 価	正味売却価額
200個	190個	@500円	@450円

3. 備品の減価償却を次の要領で行う。なお、備品はすべて×3年4月1日に取得したものである。
残存価額：ゼロ 耐用年数：8年 減価償却方法：定額法

4. 有価証券の内訳は次のとおりである。

	所有目的	帳簿価額	時 価
A社株式	売買目的	50,000円	45,000円
B社株式	支配目的	7,000円	6,500円

5. のれんは×3年4月1日に計上したものであり、5年間にわたり定額法により償却を行っている。

6. 借入金に係る支払利息を見越し計上する。借入金は、×5年1月1日に、期間1年、利率年3.5%、利息は元金返済時に支払うとの条件で借り入れたものである。

管 理 会 計

問題 5

KG 社は、単一工程単純総合原価計算によって製品製造原価の計算を行っており、月末仕掛品原価は先入先出法により計算している。次の〔資料〕に基づいて、月末仕掛品原価、当月完成品総合原価、完成品製造単価を求めなさい。なお正常減損は工程終点で発生したものであり、正常減損度外視法（正常減損費を計算しないで自動的に関係品に負担させる方法）で計算する。解答は、直接材料費と加工費に区分して答えなさい。（10点）

〔資料〕

(1) 生産データ

月初仕掛品	500 個	(40%)
当月投入量	4,000 個	
合計	4,500 個	
正常減損	200 個	
月末仕掛品	800 個	(50%)
完成品	3,500 個	

(2) 金額データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	6,000 円	3,500 円
当月製造費用	80,000 円	39,000 円

- ・（ ）内は加工進捗度である。
- ・材料は工程の始点で投入される。

〔解答欄〕

	月末仕掛品原価	当月完成品総合原価
直接材料費	円	円
加工費	円	円
合計	円	円

完成品製造単価	円
---------	---

問題 6

KG工業の今年度の損益計算書は次のとおりであった。以下の(1)～(4)に答えなさい。(10点)

損益計算書(今年度)		
売上高	(1,000個×@3,000円)	3,000,000円
変動費	(1,000個×@2,000円)	2,000,000円
貢献利益	(1,000個×@1,000円)	1,000,000円
固定費		500,000円
営業利益		500,000円

- (1) 今年度の損益計算書に基づいて、損益分岐点の販売量を求めなさい。
- (2) 今年度の損益計算書に基づいて、損益分岐点比率を求めなさい。
- (3) 今年度の損益計算書に基づいて、目標営業利益が1,000,000円の時、それを達成する販売量を求めなさい。
- (4) 来年度は今年度と比べて、販売数量が10%増加し、販売価格は10%下落し、固定費は20%増加する見込みである。この見込みに基づき、来年度にも今年度と同じく500,000円の営業利益を達成するために、変動費の削減案を検討中である。この時、単位あたり変動費を何%削減すればよいか、求めなさい。

〔解答欄〕

(1)

個

(2)

%

(3)

個

(4)

%

問題 7

次の(1)～(4)の記述のうち、下線部に当てはまる語句を、語群から選び解答欄に記入しなさい。(10点)

(1) 原価計算の手続きは、通常、費目別計算、部門別計算、製品別計算という3つの計算段階を経て行われる。このうち、必要がなければ、_____の計算段階は省略されることがある。

語群： 費目別計算 部門別計算 製品別計算

(2) 標準原価計算における仕掛品勘定の記帳方法には、パーシャル・プランやシングル・プランなどがある。このうち、_____とは、当月製造費用を標準原価で仕掛品勘定の借方に記帳する方法である。

語群： パーシャル・プラン シングル・プラン

(3) 品質原価計算において、_____とは、不良品を顧客に販売してしまったことで発生する原価であり、苦情処理費用などがこれに該当する。

語群： 予防原価 評価原価 内部失敗原価 外部失敗原価

(4) 設備投資案の評価には様々な方法が存在する。このうち、_____とは、設備投資から得られるキャッシュ・フローの現在価値合計から、設備投資額を差し引いた金額を求め、その金額が正であれば設備投資案を採用し、負であれば採用しない方法である。

語群： 正味現在価値法 内部利益率法 単純回収期間法

〔解答欄〕

(1)

(2)

(3)

(4)